

『造形展によせて』

若草幼稚園・若草ベビールーム

「作品展」ではなく「造形展」と称するのは創立当初から続く「想い」からですが、その「想い」や「願い」とは、私達保育者が何度も自分自身に問いかけ、話し合いを重ね考え続けてきた事柄でした。

そして、作品の背後にある、目に見えない、形にならない子ども達の「息遣い」や「やりとり」「音」「イメージ」「空間」の広がりまでも感じられるような、子ども達自身の「力」「輝き」をも展示できるような場でありたいと願い歩んできました。

「子どもの表現とは？」

「創造性を育むとは？」

「子ども達は、心を開放し自由にのびのびと描き楽しんでいるだろうか？」

「主体的に活動し楽しんでいるだろうか？感性を大事にしたいと思いながら実は大人側の視点で求めすぎていることはないだろうか？」

「様々な方法で表現したくなるような自然・人・もの・こととの『出会い』に満ちた園生活であるだろうか？」

この問いはこれからも続きます。

子ども達の表現活動も続きます。

淡々と過ごす園生活の中で、子ども達は、どれだけ心をときめかせ、無意識でも湧きおこる感情に向き合い感じ考え動き出していることでしょう。子ども達の内なる衝動、感性、放ち続けるエネルギーに気付き寄り添える保育者でありたいと、今後も一緒に活動を楽しみ努力していきたいと思えます。

年長組は、今年も「見て・触って・遊べる造形展」と称し、展示するだけでなく遊んで体感できる内容です。「造形展」という言葉が子ども同士をつなぎ、これからも表現する楽しさ、心地よさが感じられる日々でありますように。

保護者の皆様からは、材料の提供から、汚れ物のお洗濯などご協力いただきましてありがとうございました。ご覧になってのご意見、ご感想なども是非お待ちしております。